

資料 言葉の意味について

ワークショップ

本来は「作業場」や「工房」を意味する言葉ですが、日本では「体験型講座」を指す用語です。講演会のように、一方通行の講座ではなく、参加者が主体的に取り組む、そこから様々な気づきや学びが生まれ、それが企画者の想像を超えた学習を生み出します。そのため、今や人権学習の主流にもなろうとしている学習方法です。この冊子の活動はワークショップの形を取っています。

ファシリテーター

ワークショップの司会進行役のことです。司会だけでなく、参加者が自発的に作業・話し合いをするための準備をしたり、環境を整えたりする役割を持ちます。

ワークシート

ワークショップを行う際に使う用紙のことをいいます。感想を書いたり、カードにして選んだり、分類したり目的に応じて使い分けます。このプログラム集にはあらかじめワークシートがついているものもありますので、コピーを取ってご利用してください。また、ワークシートは、参加者の年代などに応じて、内容を変えるなどして適切にお使いください。

ジェンダー

生物学的な性別を示すセックスに対して、長い歴史の中で社会的・文化的に形成されてきた性別の概念を言います。

ブレインストーミング

集団思考とも訳されます。参加メンバー各自が自由奔放にアイデアを出し合い、互いの発想のちがいを利用して、連想を行うことによってさらに多数のアイデアを生み出そうという集団思考法・発想法のことです。“本人にとってはつまらないアイデアに思えても、ほかの出席者には別の素晴らしいアイデアをひらめかせるかもしれない”という考えがあり、自由な発想でアイデアを生み出すことで、ほかのメンバーの頭脳に刺激を与えることを狙います。

ブレインストーミングには次の4原則があります。

- ① 批評・批判をしない（批判厳禁） 各人のアイデアに対して、批評・批判することは慎みます。
- ② 粗野な考えを歓迎する（自由奔放） 誰もが思いつきそうなアイデアよりも、奇抜な考え方や、ユニークで斬新なアイデアを重視します。
- ③ 量を重視する（質より量） 様々な角度から、多くのアイデアを出す。一般的な考え方・アイデアはもちろん、一般的でなく新規性のある考え方・アイデアまで、あらゆる提案を歓迎するようにします。
- ④ アイデアを結合し発展させる（結合改善） 別々のアイデアをくっつけたり、一部を変化させたりすることで新たなアイデアを生み出していく。他人の意見に便乗することが推奨されます。